



2013年度 決算説明会

2014年6月6日

新関西国際空港株式会社



I 2013年度の決算概要 及び 弊社事業の現状について

代表取締役社長 兼 CEO 安藤 圭一

II 2013年度の決算詳細 及び 2014年度の資金調達について

常務取締役 兼 常務執行役員 竹嶋 孝育

III 質疑応答



I 2013年度の決算概要 及び 弊社事業の現状について

1-1. 空港運営の概況



	関西国際空港			大阪国際空港		
	2012年度	2013年度	前年比	2012年度	2013年度	前年比
航空機発着回数 (万回)	12.9	13.3	104%	12.8	13.9	109%
国際線	8.5	8.6	102%	—	—	—
旅客便	7.0	7.2	103%	—	—	—
貨物便	1.4	1.4	100%	—	—	—
国内線	4.4	4.7	106%	12.8	13.9	109%
航空旅客数 (万人)	1,680	1,812	108%	1,315	1,410	107%
国際線	1,143	1,205	105%	—	—	—
日本人旅客	724	678	94%	—	—	—
外国人旅客	382	496	130%	—	—	—
通過	37	30	83%	—	—	—
国内線	538	607	113%	1,315	1,410	107%
貨物量 (万トン)	68.7	67.1	98%	12.0	13.3	111%

1-2. 経営成績(連結損益計算書)の概況



(単位:億円)	関西国際空港				大阪国際空港				OATグループ ^o
	2012年度	2013年度	増減	前年比	2012年度 (7~3月)	2013年度	増減	前年比	2013年度 (10~3月)
営業収益	922	999	77	108%	95	140	45	147%	165
空港運営事業	608	629	20	103%	85	127	41	149%	—
商業事業	276	331	55	120%	10	13	3	132%	—
鉄道事業	38	40	2	104%	—	—	—	—	—
営業費用	707	747	40	106%	43	77	34	181%	154
営業利益	215	252	37	117%	53	63	10	119%	11

(注1) 2012年度の関西空港分は、旧関西国際空港(株)連結(4~6月)を加算。

(注2) 2012年度の大阪空港分は、2012年7月~2013年3月迄の9ヵ月分。

(注3) OATグループは、2013年10月~2014年3月迄の6ヵ月分。

1-3. 経営成績(連結損益計算書)の概況



(単位:億円)	2012年度	2013年度	増減	対前年比
営業収益	1,018	1,268	251	125%
営業費用	750	942	192	126%
営業利益	268	326	58	122%
経常利益	180	219	38	121%

(注1) 2012年度の関西空港分は、旧関西国際空港(株)連結(4~6月)を加算。

(注2) 2012年度の大阪空港分は、2012年7月~2013年3月迄の9ヵ月分。

(注3) OATグループは、2013年10月~2014年3月迄の6ヵ月分。

2-1. 中期経営計画 ～計画のポイント～



「新関空モデル」

日本初の空港ビジネスモデルにより
アジアのリーディングエアポートを目指した成長を実現
～「空を変える。日本が変わる。」ための TAKE OFF ～

国家的戦略プロジェクト（日本初の試み）

国の基幹インフラにおける民間主導の経営とコンセッションによる民間資金の活用

- 土地保有と運営の分離
- 民間主導の徹底
- 複数空港の運営
- 航空系事業と非航空系事業(商業事業)との一体化
- コンセッション(公共施設等運営権)の設定

新しい取組み

カスタマーズ ・アイ

- ・利用者、エアラインなどの目線に立った料金設定
- ・お客様満足度を向上させるための快適性の追求など

料金戦略

- ・11年ぶりの着陸料引下げ
- ・新規需要の成長をサポートする増量割引の複数年化
- ・伊丹空港における低騒音機導入促進料金など

LCC ターミナル

- ・我が国初のLCC専用ターミナル(第2ターミナル)の整備・運営
- ・LCCの更なる成長をサポートするための第3ターミナルの整備

貨物ハブ

- ・FedEx社北太平洋地区ハブに向けた貨物施設の整備
- ・更なるエアライン・フォワードアーの拠点誘致など

ローコスト オペレーション

- ・民間的手法の徹底、経営統合のシナジー効果などによる施設運営費の削減
- ・空港運用の体制見直し(マルチオペレーション)など

環境先進空港 (スマート愛 ランド構想)

- ・クリーンエネルギー、再生可能エネルギーの活用促進
- ・低騒音・低排出機材の導入促進など

国際事業 展開

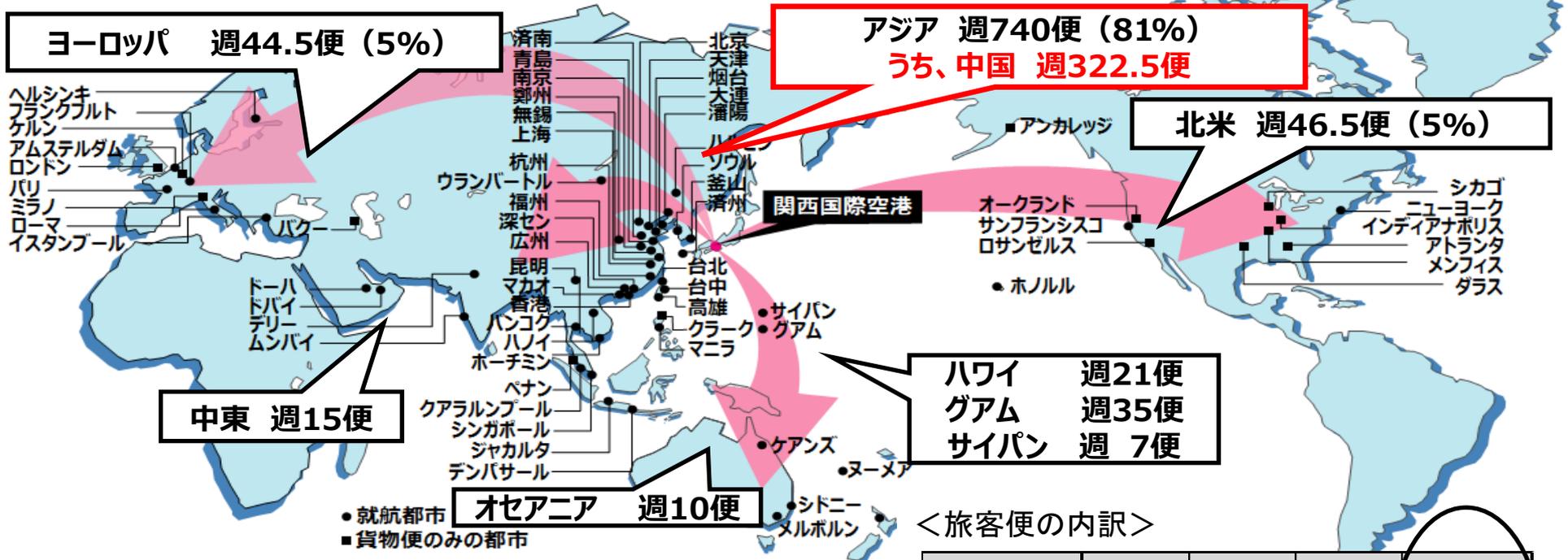
- ・新関空モデルの国内外への情報発信
- ・コンサルティング等の海外事業の展開など



2-2. 中期経営計画(航空成長戦略の確実な進捗①)

～2014年国際線・夏期スケジュールにおける関空のネットワーク～

2014年夏期スケジュールは、夏・冬通して開港以来最高の、**919便！！**



<旅客便の内訳>

	'12夏	'13夏	'14夏	'14/'12
FSC便数	612	577	614	100.3%
LCC便数	104	119	153	147.1%
旅客便計	716	696	767	107.1%

	旅客便	貨物便	合計
就航会社数	55	17	65
就航国(地域)数	22	19	25
就航都市数	53	40	68
就航便数(便/週)	767	152	919

尖閣諸島問題等の影響で、便数が一時落ち込んだが、直近では、FSC・LCC共に回復・増便！

※夏期スケジュールピーク時(8月)の計画。



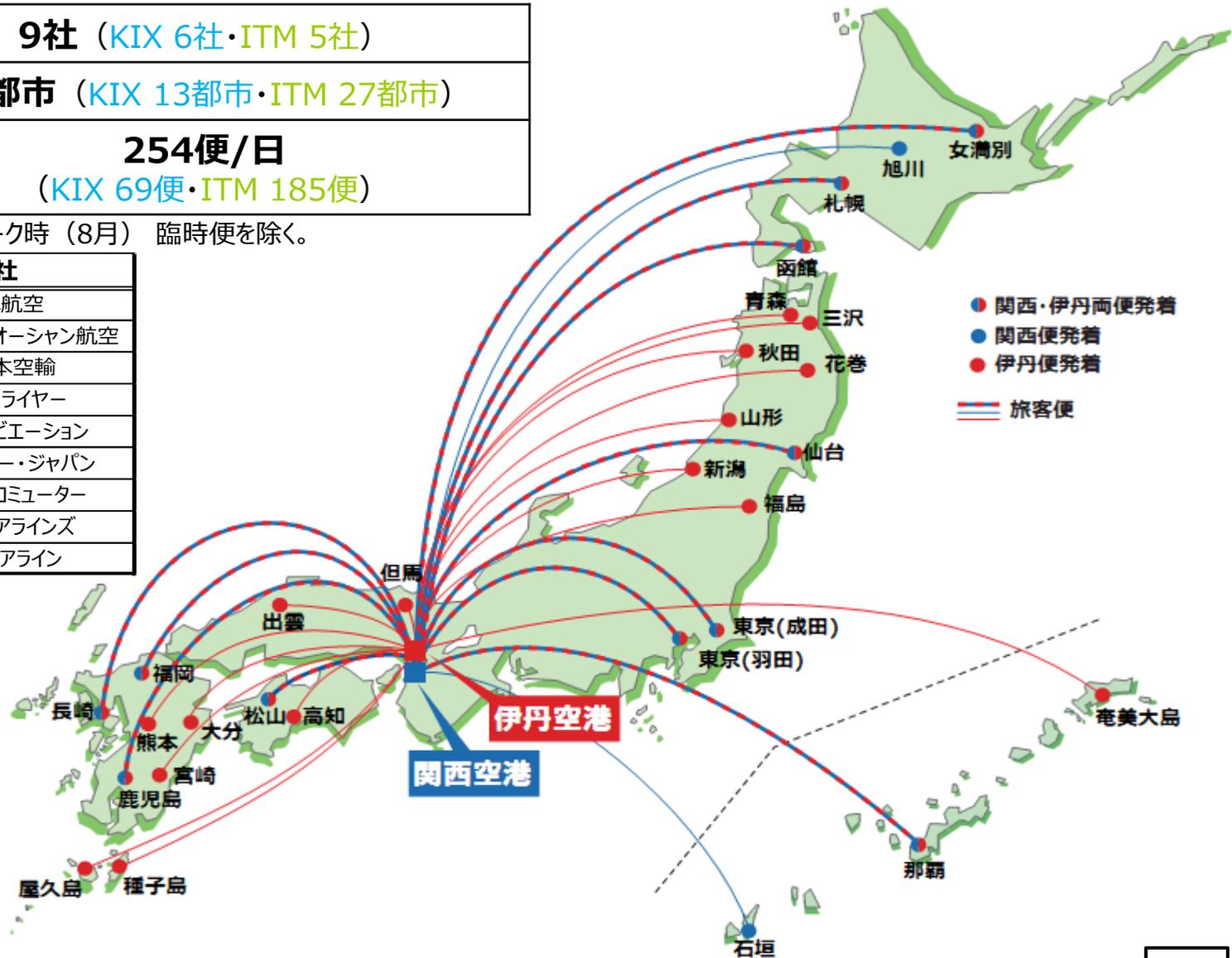
2-3. 中期経営計画(航空成長戦略の確実な進捗②)

～2014年夏期における関空・伊丹の充実した国内線ネットワーク～

航空会社数	9社 (KIX 6社・ITM 5社)
就航都市数	29都市 (KIX 13都市・ITM 27都市)
就航便数	254便/日 (KIX 69便・ITM 185便)

※2014年夏期スケジュール ピーク時(8月) 臨時便を除く。

KIX	ITM	航空会社	
★	★	JAL	日本航空
★		JTA	日本トランスオーシャン航空
★	★	ANA	全日本空輸
★		SFJ	スターフライヤー
★		APJ	ピーチ・アビエーション
★		JJP	ジェットスター・ジャパン
	★	JAC	日本エアコミューター
	★	IBX	IBEXエアラインズ
	★	AHX	天草エアライン



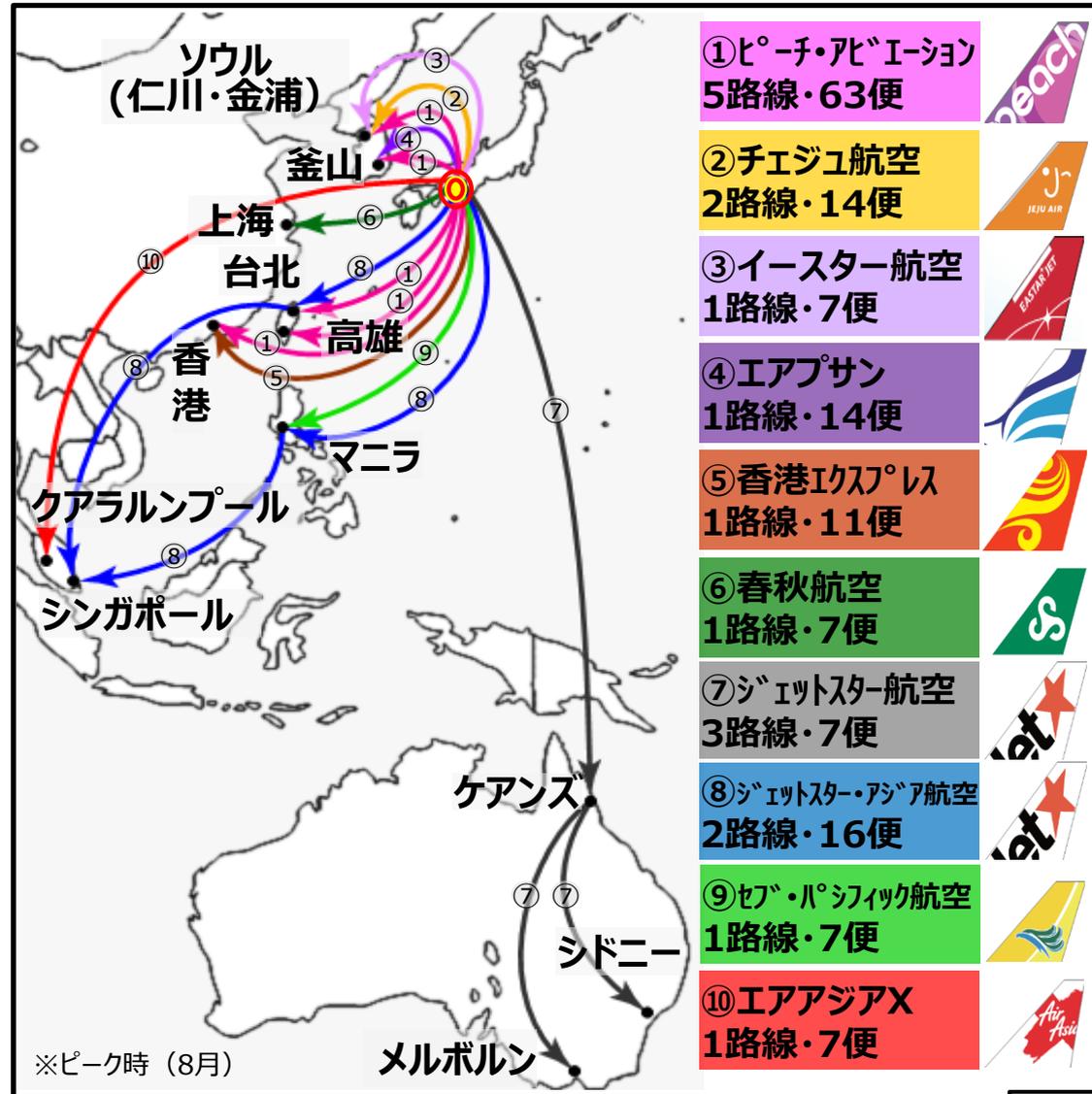
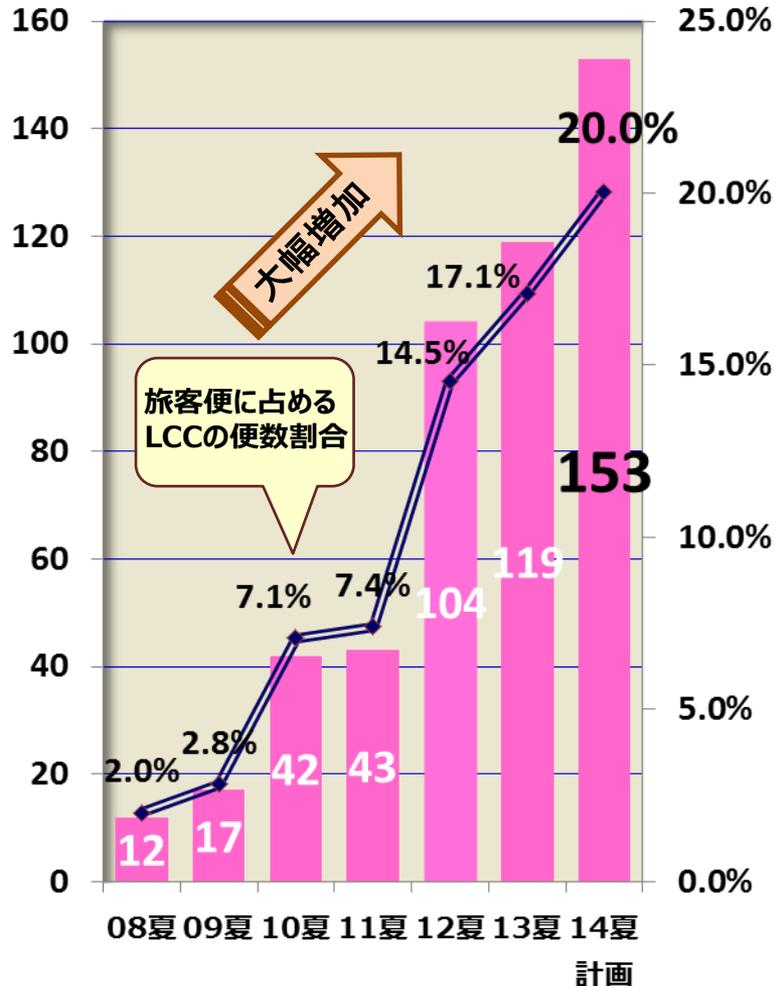


2-4. 中期経営計画(LCC事業への取り組み①)

～2014年国際線・夏期スケジュールにおける関空への就航状況～

関空における国際線LCC便数の推移

(便/週)





2-5. 中期経営計画(LCC事業への取り組み②) ～国内拠点型LCC・海外大手LCCの就航実現～

ピーチ・アビエーション

- ・関西空港を拠点とする、国内初の拠点型LCC。
- ・2012年3月に運航開始し、就航9ヵ月で搭乗者100万人、1年半で300万人、そして2年2ヵ月で500万人を突破するなど、当初計画を上回るスピードで、需要が増大！
- ・現在、関西空港から国内9路線、海外5路線を運航中。

peach



Copyright © Peach Aviation株式会社

ジェットスター・ジャパン

- ・成田を拠点とし、2012年7月運航開始。関空や札幌等、国内の主要都市に就航。
- ・本年6月より、関空路線の増便を発表。関空の国内第2拠点化を表明しており、今後の更なる需要増を見込む。

Jetstar



春秋航空

- ・上海を拠点とする、中国初のLCC。
- ・本年3月より、関空への就航を開始。関空から中国本土への初のLCCであり、高い搭乗率を誇る！
- ・7月からは、武漢、重慶、天津へも就航。

春秋航空
SPRING AIRLINES



2-6. 中期経営計画(LCC事業への取り組み③)



～更なるLCCの就航に向けた第3ターミナルの整備～

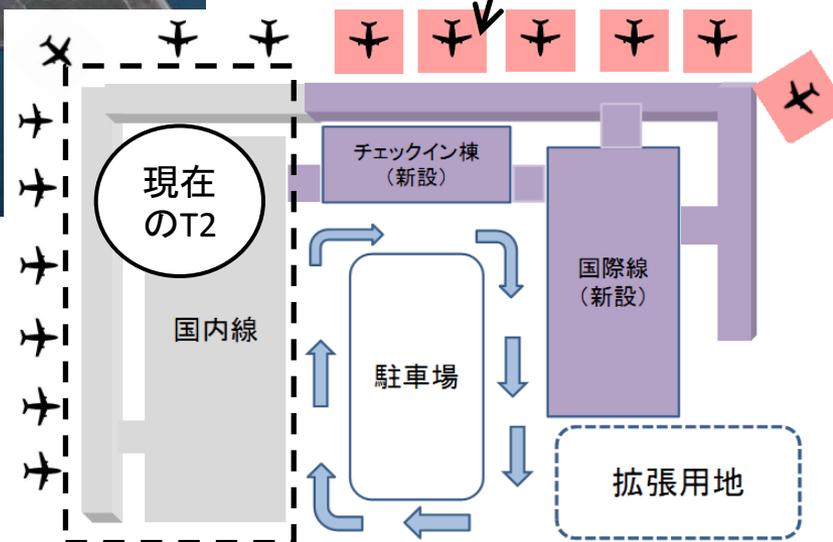
**ピーチ社 (関空拠点のLCC) の順調な運営により、早くも第2ターミナルが狭隘化。
LCCに対するニーズの高まりを踏まえ、第3ターミナルの整備を決定！**



第2ターミナルの隣に、第3ターミナルを整備。

整備後は、第2ターミナルを国内線専用とし、第3ターミナルは隣接する形で、国際線専用。

- ・駐機場を6か所新設し、旅客処理能力は、現在の年間400万人から800万人に倍増！
- ・2016年下期の供用開始を目指し、今後、詳細設計を経て、整備を開始。



2-7. 中期経営計画(貨物ハブに係る取り組み)

～大手インテグレーターによる関空での北太平洋地区ハブ設置～



施設概要

○延床面積

約25,000㎡
(庇下面積除く)

○貨物仕分け能力

毎時9,000個

○オペレーション体制

24時間

○業務内容

通関業務、ランプオペレーション、
仕分け・積み替え業務

○可能駐機数

最大7機

○オペレーション開始時期

2014年4月1日

エントランス 外観



2期空港島内。連絡誘導路を挟んだ
第2ターミナルの反対側に整備。

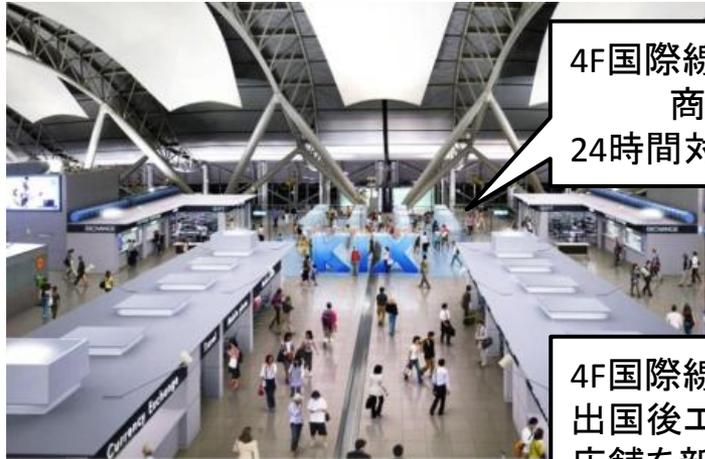


2-8. 中期経営計画(魅力ある商業エリアの創造①) ～関空第1旅客ターミナルビルのリノベーション着手～



開港20周年を迎えるにあたり、商業施設だけでなく、
機能施設も対象とした、関空第1旅客ターミナルビルのリノベーションに着手！

商業施設の主な内容



4F国際線出発フロアの
商業施設を中央に集約！
24時間対応のコンビニも新設！

4F国際線出発フロアの一部を
出国後エリアとし、大型免税
店舗を新設！

出国後エリアに、
ブティック型免税店舗を新設！



- ・機能施設では、トイレやベビールームの改装、WiFi設備の整備や案内サインの見直し等を実施。
- ・来年3月末に終了し、更に利用しやすい空港へ！

2-9. 中期経営計画(魅力ある商業エリアの創造②) ～大阪国際空港における商業系売上・利便性の向上～



大阪国際空港ターミナル株式会社(通称:OAT)のグループ化による収益力向上

- ・大阪国際空港のターミナルビル運営を担う、大阪国際空港ターミナル(株)について、統合による事業価値向上に向け、昨年末に当社が全株式を取得し、グループ会社化。



年間300億円超(連結)の売上を誇るOATグループの当社グループ化により、
当社グループの収益力が飛躍的に向上!

さらに...

免税事業の直営化推進や在庫管理のオペレーション強化等、
連携・効率化施策を推進し、更なる収益拡大を実現!

ターミナルビルの大規模改修実施

- ・老朽化対応及び都市型空港としての利便性確保に向け、大阪国際空港ターミナルビルの改修を計画。
- ・専門部署を設置し、実施に向けた検討を継続中。

年間1,400万人規模の大阪国際空港の航空需要を、確実に商業系売上へ
結びつけると共に、利便性の向上にも努め、需要基盤を一層強固なものに!

2-10. 中期経営計画(環境先進空港・スマート愛ランド構想①) ~国内初! 空港施設への水素エネルギーの大規模導入事業実施~

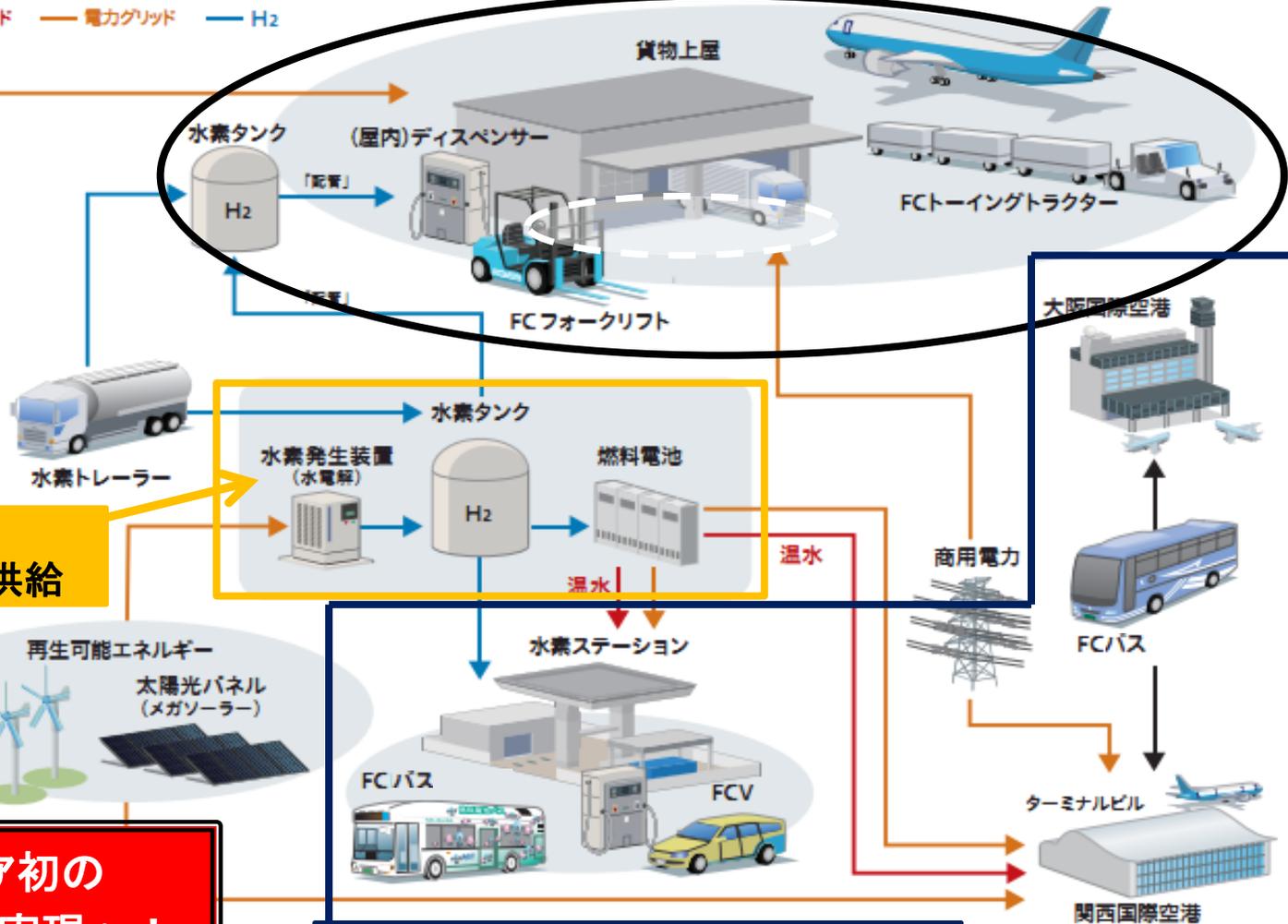


KIX水素グリッド(イメージ図)

— 熱グリッド — 電力グリッド — H₂

①燃料電池フォークリフト実用化・最適水素インフラ整備

関空において、
3年間にわたり、
水素エネルギーの
活用に向けた
取組みを導入。



③水素発電システム整備・ 2期地区等へのエネルギー供給

世界最大級・アジア初の
水素グリッドエアポートの実現へ!

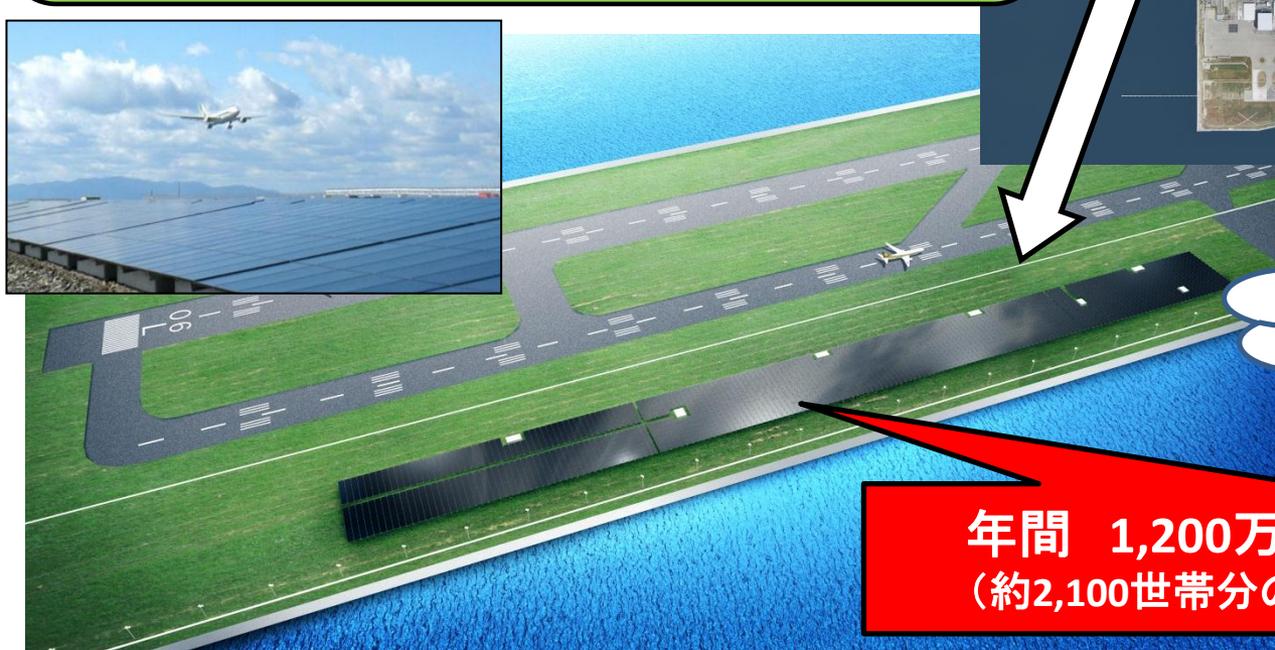
②水素ステーション整備・FCバス導入

2-11. 中期経営計画(環境先進空港・スマート愛ランド構想②) ～KIXメガソーラー事業の展開～



関空の2期島に、アジアの空港で最大級となる、
大規模太陽光発電施設（メガソーラー）を設置し、発電事業を開始！

- ・B滑走路横の土地と貨物上屋、
合計約12万㎡の広さ(東京ドームの約2.6倍)に、
計72,000枚の太陽光パネルを設置。
- ・本年2月1日より、発電事業者による事業を開始。



年間 約4,000トンの
CO2削減も！

年間 1,200万kWhの発電量を想定！
(約2,100世帯分の一般住宅 年間使用量相当)

3-1. 2014年度の連結業績見通し(運営)



	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年比		2014年度 中期計画	中期計画比	
航空機発着回数 (万回)	27.2	28.6	1.4	105%	30.5	▲ 1.9	94%
関西国際空港	13.3	14.7	1.4	110%	17.0	▲ 2.3	86%
大阪国際空港	13.9	13.9	0.0	100%	13.5	0.4	103%
航空旅客数 (万人)	3,222	3,386	164	105%	3,300	86	103%
関西国際空港	1,812	1,983	171	109%	2,000	▲ 17	99%
大阪国際空港	1,410	1,403	▲ 7	99%	1,300	103	108%

3-2. 2014年度の連結業績見通し(収支)



(単位:億円)	2013年度 実績	2014年度 見通し	前年比		2014年度 中期計画	中期計画比	
営業収益	1,268	1,459	191	115%	1,505	▲ 46	97%
関西空港	999	1,061	62	106%	1,086	▲ 25	98%
大阪空港	140	141	1	101%	149	▲ 8	95%
OATグループ [°]	165	344	179	—	286	58	—
営業利益	326	353	27	108%	353	0	100%
関西空港	252	263	11	104%	288	▲ 25	91%
大阪空港	63	62	▲ 1	98%	65	▲ 3	95%
OATグループ [°]	11	28	17	—	—	28	—
経常利益	219	182	▲ 37	83%	182	0	100%
当期純損益	239	91	▲ 148	38%	—	—	—

4. 事業運営権の売却(コンセッション)の概要および進捗について



1. 背景 ～関西国際空港及び大阪国際空港の一体的かつ効率的な設置及び管理に関する法律の目的～

①コンセッションを通じた
関空債務の早期かつ確実な返済



②関空の我が国の国際拠点空港としての機能の再生・強化

③関西における航空輸送需要の拡大による
我が国の国際競争力の強化・関西経済の活性化への寄与

2. コンセッションの概要

- ①関西空港と伊丹空港における各種(空港運営・商業等)事業の運営権を、第三者へ売却。売却代金をもって、弊社は関西空港の整備に要した費用を主とする既存債務を返済。
- ②コンセッション後も、空港用地・滑走路・ターミナルビル等の資産は、弊社が保有。
- ③コンセッションの実施主体は弊社だが、運営権の設定時等は国交相の承認が必要。

3. 実施準備の進捗

- ・出来るだけ速やかな実現に向け、設定期間や代金の受入方法等、様々な選択肢を視野に、各種検討・協議を、関係省庁を含めて進めているところ。
- ・平成24年度の政府予算案に係る国交相と財務相の合意文書に明記された、「早ければ平成26年度にも」という目標(あくまでも目標時期)に向け、鋭意、作業中。

<参考>コンセッションのスキームについて



[役割]

[コンセッションスキーム]

運営権
取得者
(投資家等)

公共施設等運営権を取得し、**両空港の運営**を実施

着陸料・商業売
上等の運営収入

運営権の設定

運営権対価

空港
管理者

新関西国際空港株式会社 (国100%出資)

- ◇ 関西国際空港の滑走等の空港資産の所有
- ◇ 伊丹空港の土地・滑走等の空港資産の所有



関空債務の早期
かつ確実な返済

関空用地の貸付 ↑ ↓ 地代

関空土地保有会社
(連結会社)



そして、

空を変える。日本が変わる。

完全民営化に向けた新関西国際空港の挑戦は続きます。



Ⅱ 2013年度の決算詳細 及び 2014年度の資金調達について

1. 経営成績(連結損益計算書)の前年度比較

[經常利益まで]



(単位:億円)	2012年度	2013年度	増減
営業収益	1,018	1,268	251
空港運営事業	694	755	61
関西空港	608	629	20
大阪空港	85	127	41
商業事業	286	344	58
関西空港	276	331	55
大阪空港	10	13	3
鉄道事業	38	40	2
OATグループ	—	165	165

	2012年度	2013年度	増減
営業費用	750	942	192
売上原価	103	180	77
施設運営等経費	410	514	104
減価償却費	237	248	11
営業利益	268	326	58
営業外収益	72	44	▲ 28
うち政府補給金	69	40	▲ 29
営業外費用	160	151	▲ 9
うち支払利息	157	147	▲ 10
經常利益	180	219	39

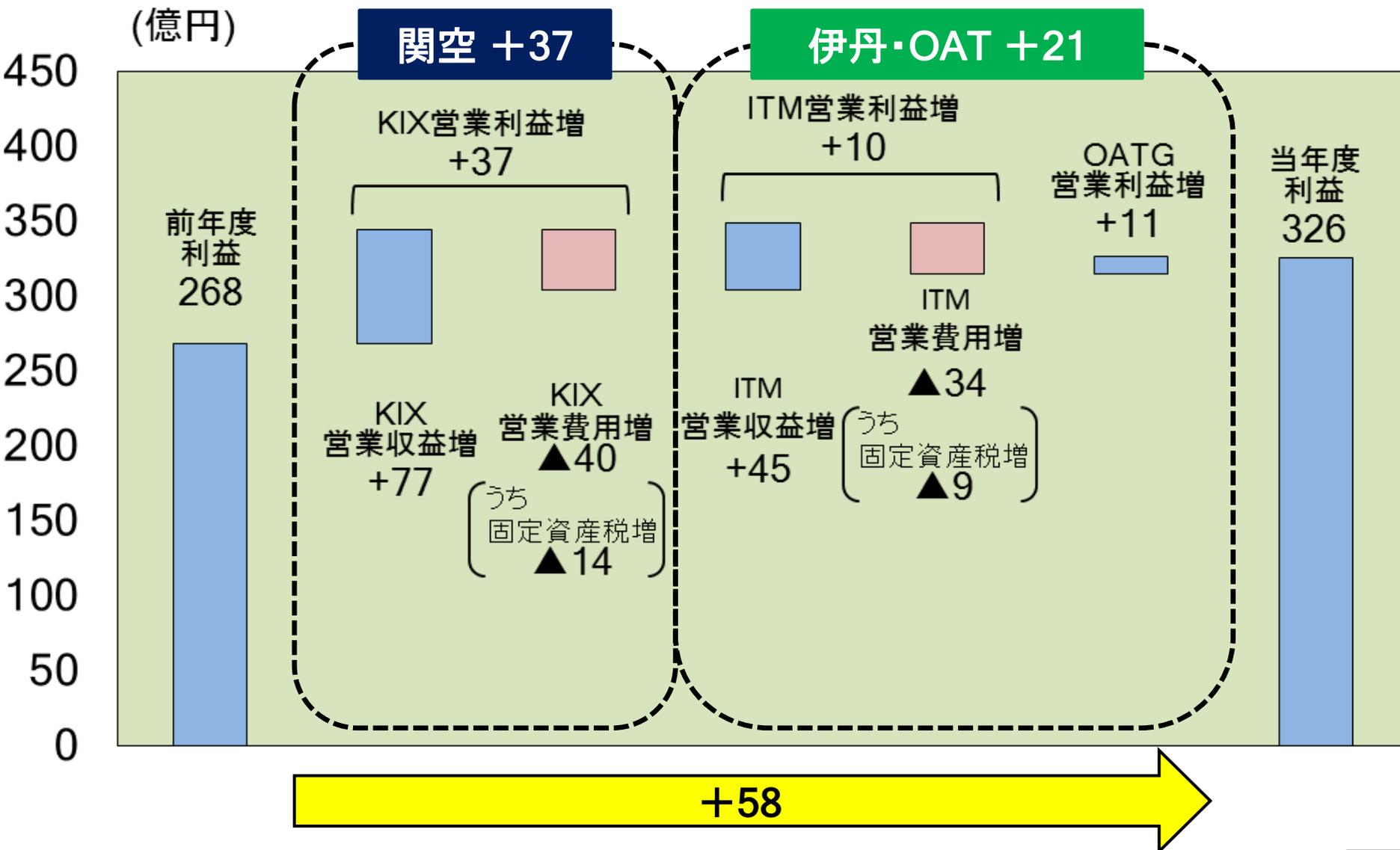
(注1) 2012年度の関西空港分は、旧関西国際空港(株)連結(4~6月)を加算。

(注2) 2012年度の大阪空港分は、2012年7月~2013年3月迄の9ヵ月分。

(注3) OATグループは、2013年10月~2014年3月迄の6ヵ月分。



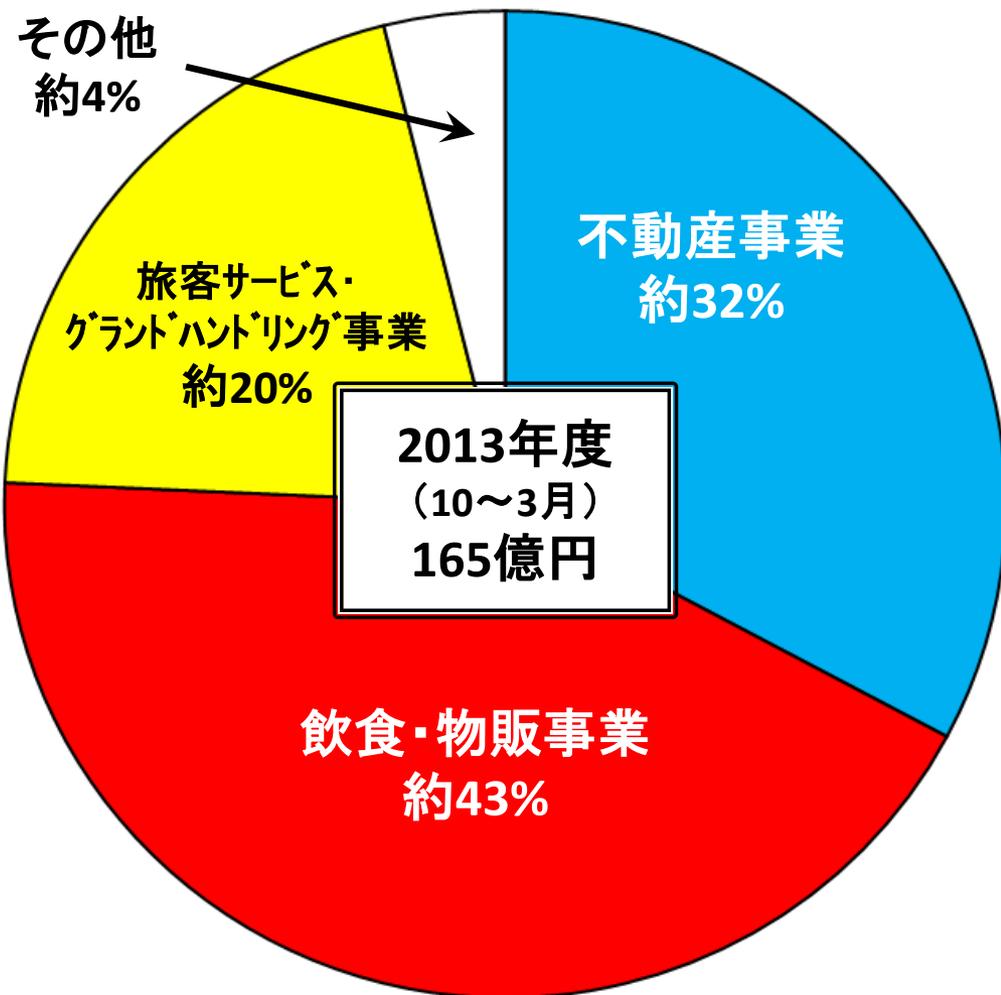
2. 営業利益の増減分析



3. OATグループの概要



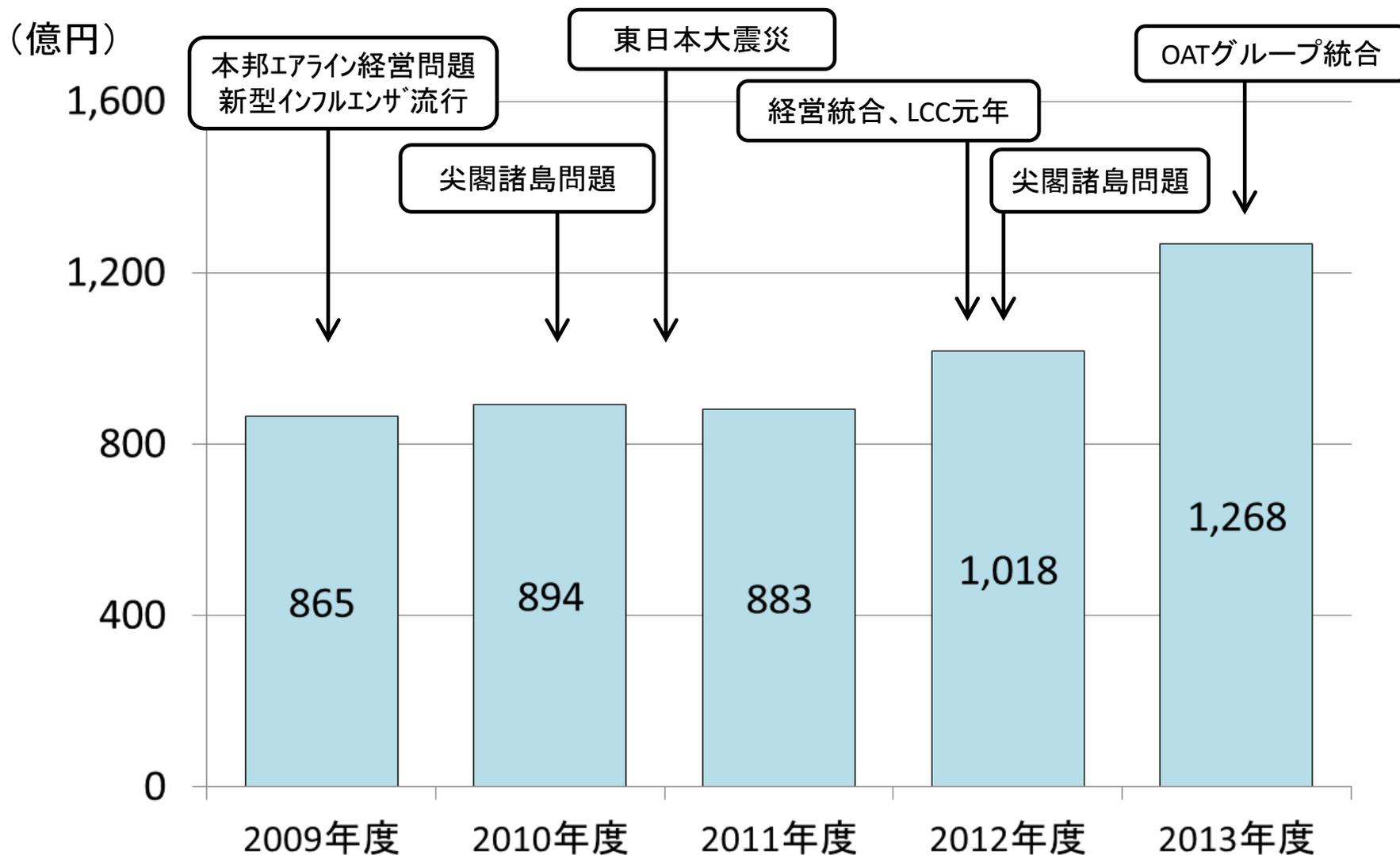
OATグループ 営業収益内訳



OATグループ 会社数	
13社 (持分法適用会社2社含む)	

OATグループ 空港別 展開事業	
大阪空港	不動産事業、商業事業 旅客サービス業、ホテル事業 施設保全事業、広告代理業
関西空港	不動産事業、商業事業、 グラントハンドリング事業、旅客サービス業
神戸空港	商業事業、旅客サービス業
羽田空港	商業事業、グラントハンドリング事業
成田空港	商業事業
仁川空港	卸売事業

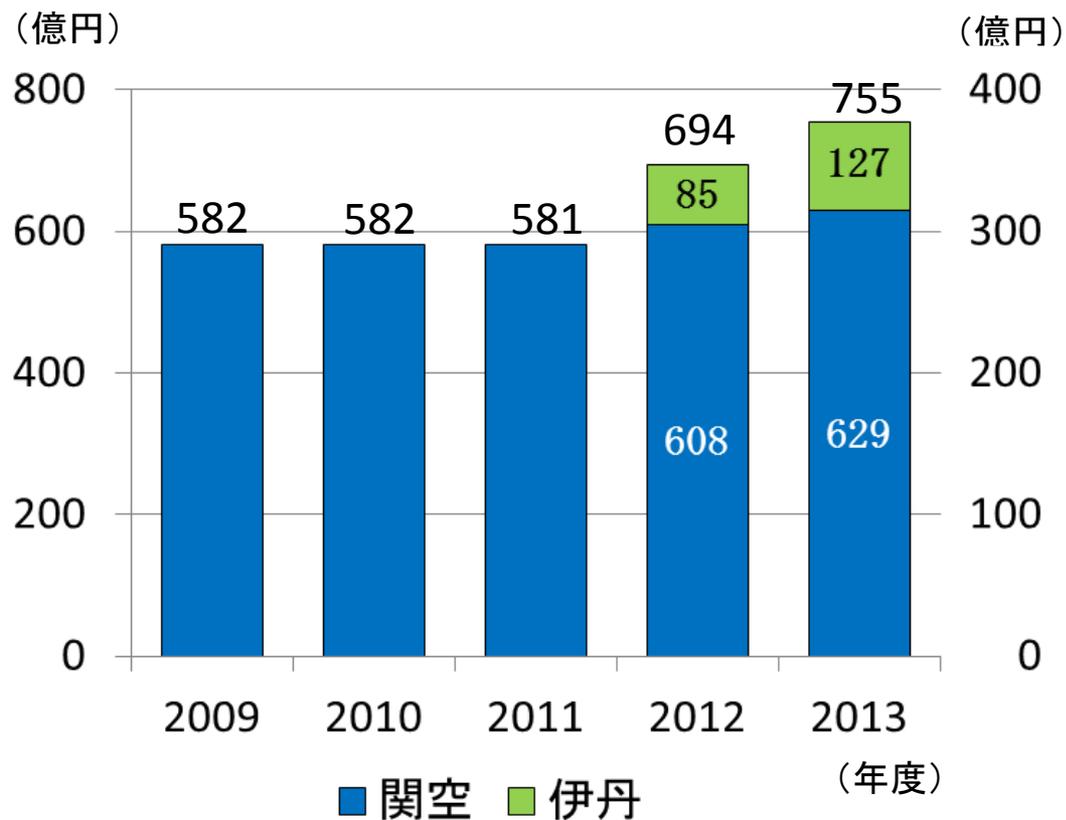
4-1. 営業収益の推移(連結)



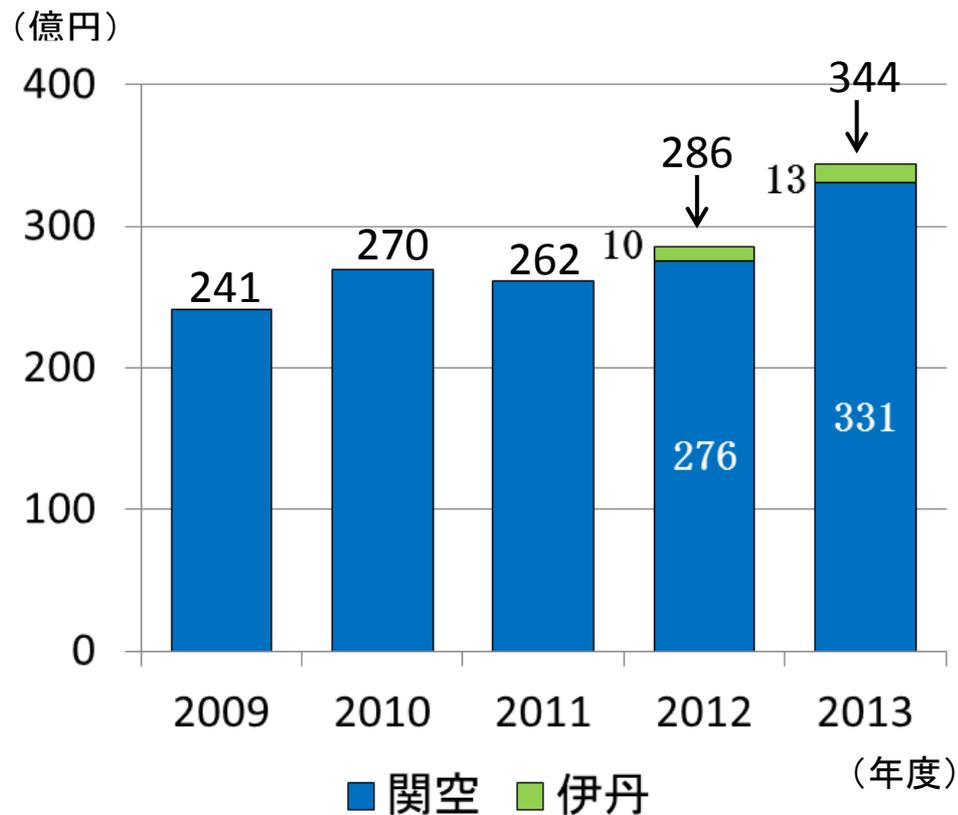
4-2. セグメント別収益の推移



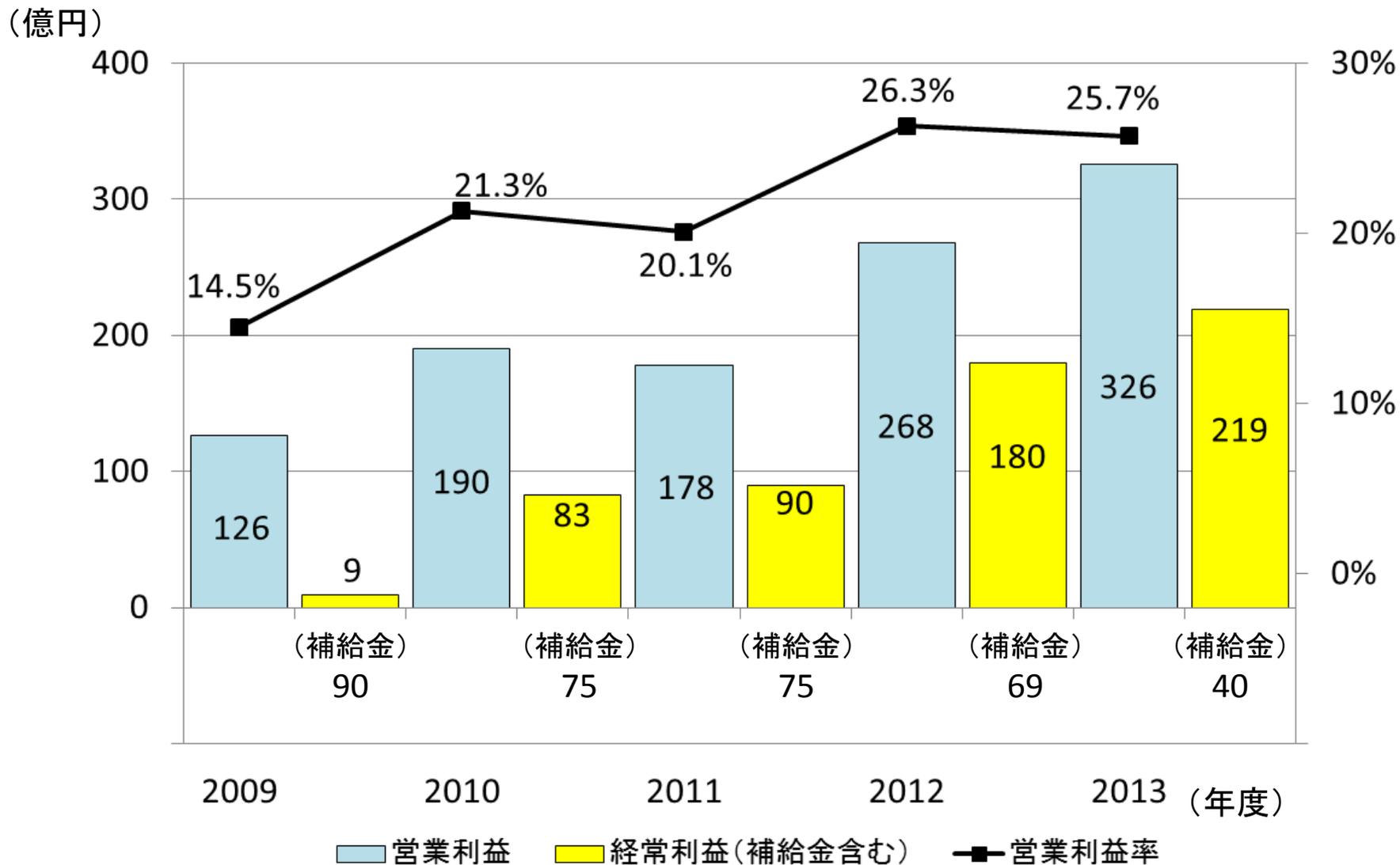
空港運営事業



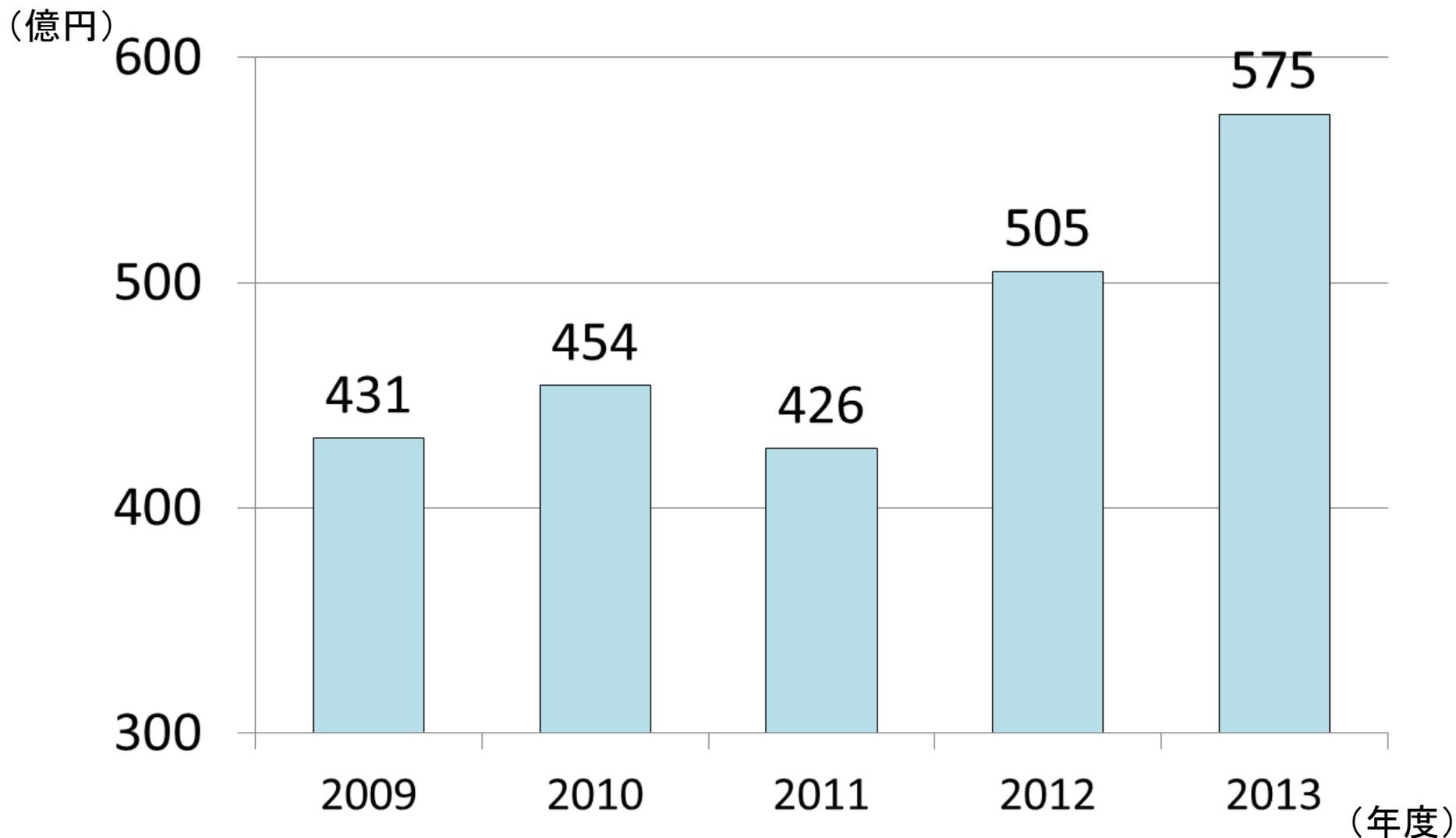
商業事業



4-3. 営業利益・経常利益の推移(連結)



4-4. EBITDAの推移(連結)



(注) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

5. 経営成績(連結損益計算書)の前年度比較

[当期純損益まで]



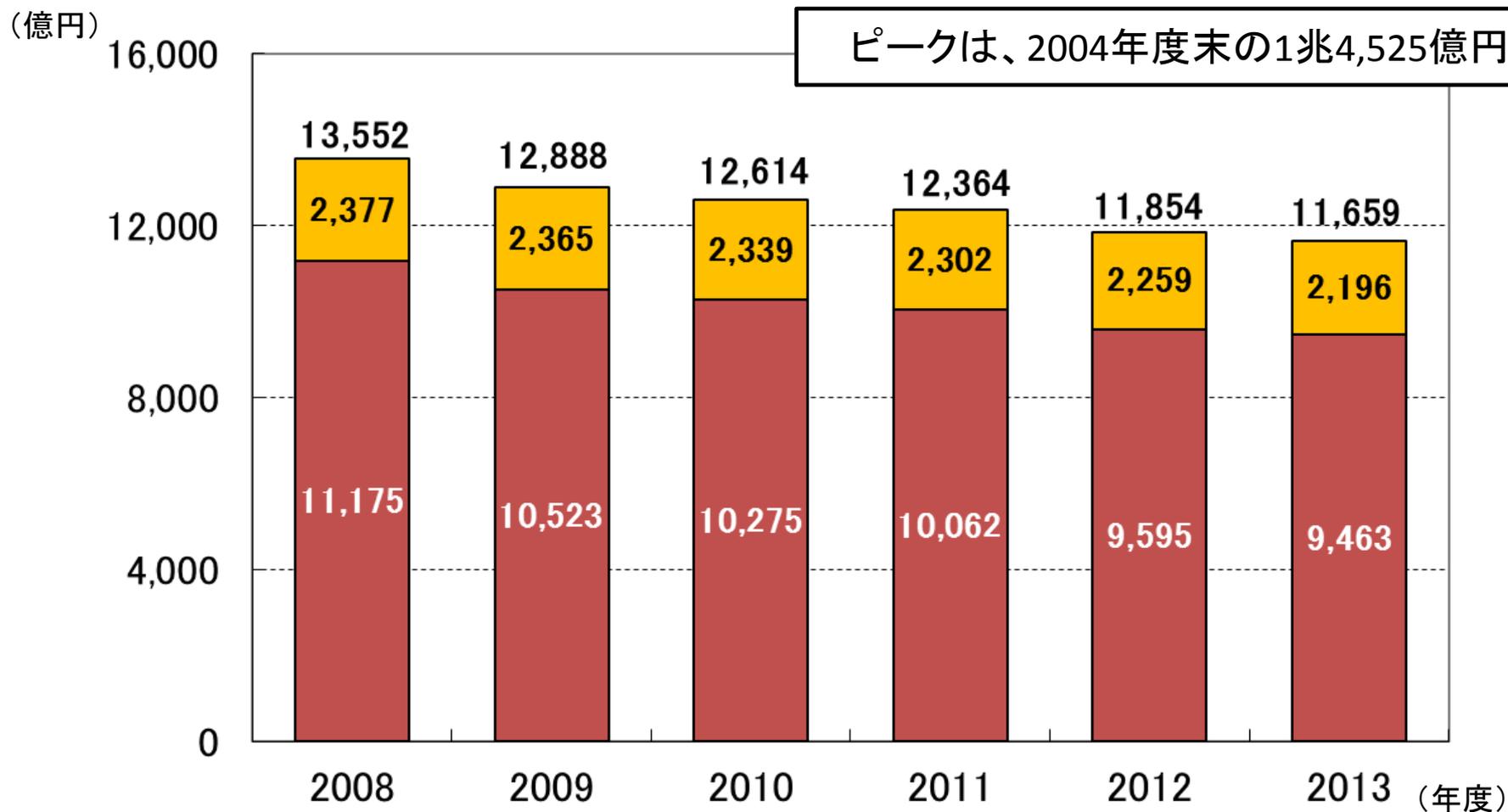
(単位:億円)	2012年度	2013年度	増減	対前年比
営業収益	788	1,268	480	161%
営業費用	579	942	363	163%
営業利益	209	326	117	156%
経常利益	159	219	60	138%
特別利益	11	110	98	991%
特別損失	241	5	▲ 236	2%
当期純損益	▲ 27	239	266	—

6. 財政状態の概要(連結貸借対照表)



(単位:億円)	2012年度 期末	2013年度 期末	増減
流動資産	265	380	115
固定資産	19,445	19,472	27
資産合計	19,710	19,852	142
流動負債	1,661	1,608	▲ 53
固定負債	10,519	10,435	▲ 84
負債合計	12,180	12,043	▲ 137
株主資本	5,504	5,743	239
その他包括利益累積額	—	▲ 0	▲ 0
少数株主持分	2,026	2,067	40
純資産合計	7,530	7,810	279
負債・純資産合計	19,710	19,852	142

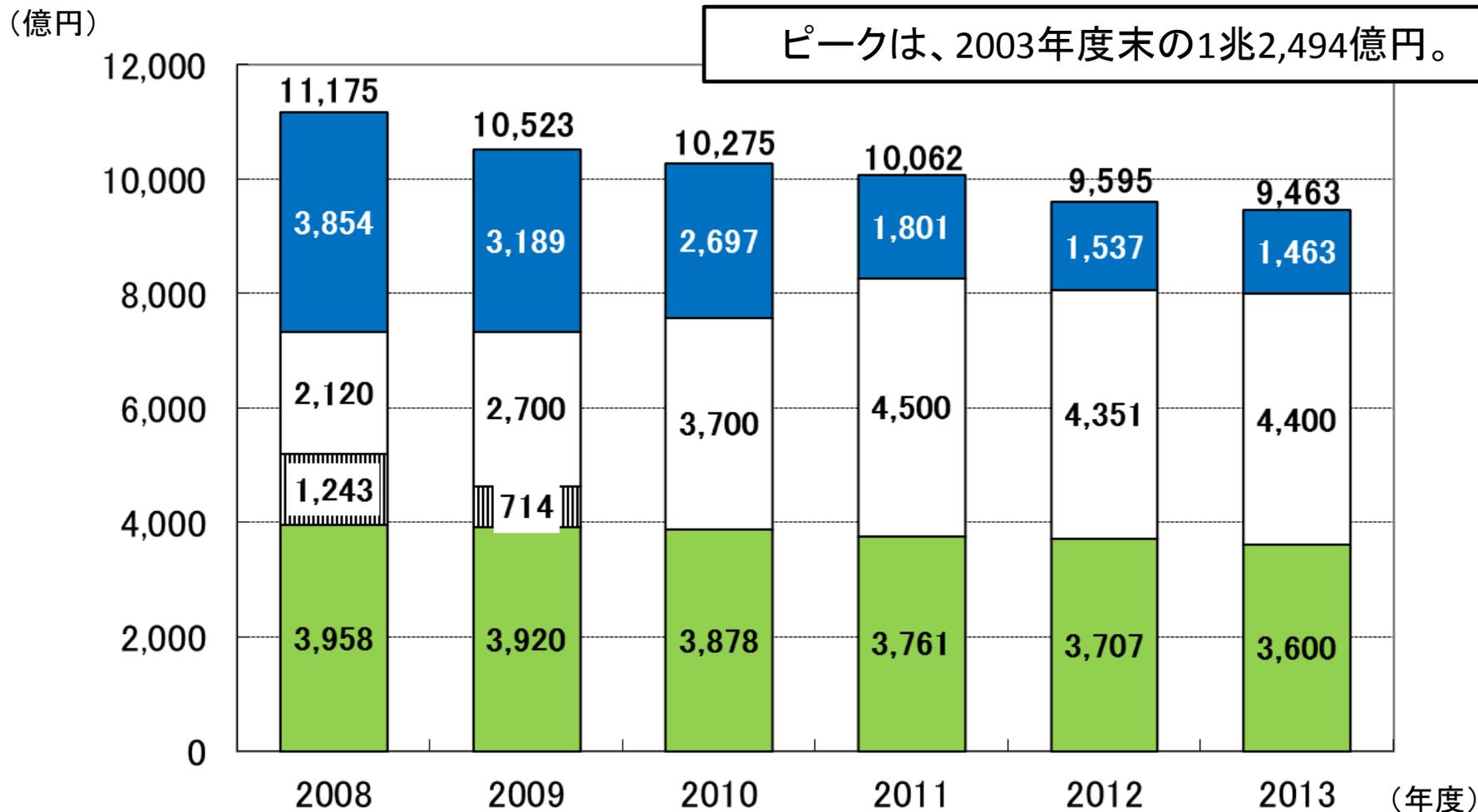
7-1. 債務残高の推移(連結)



■ 有利子債務 ■ 無利子債務

(注1) 億円未満四捨五入。 (注2) 端数処理の関係で、合計が一致しない箇所あり。

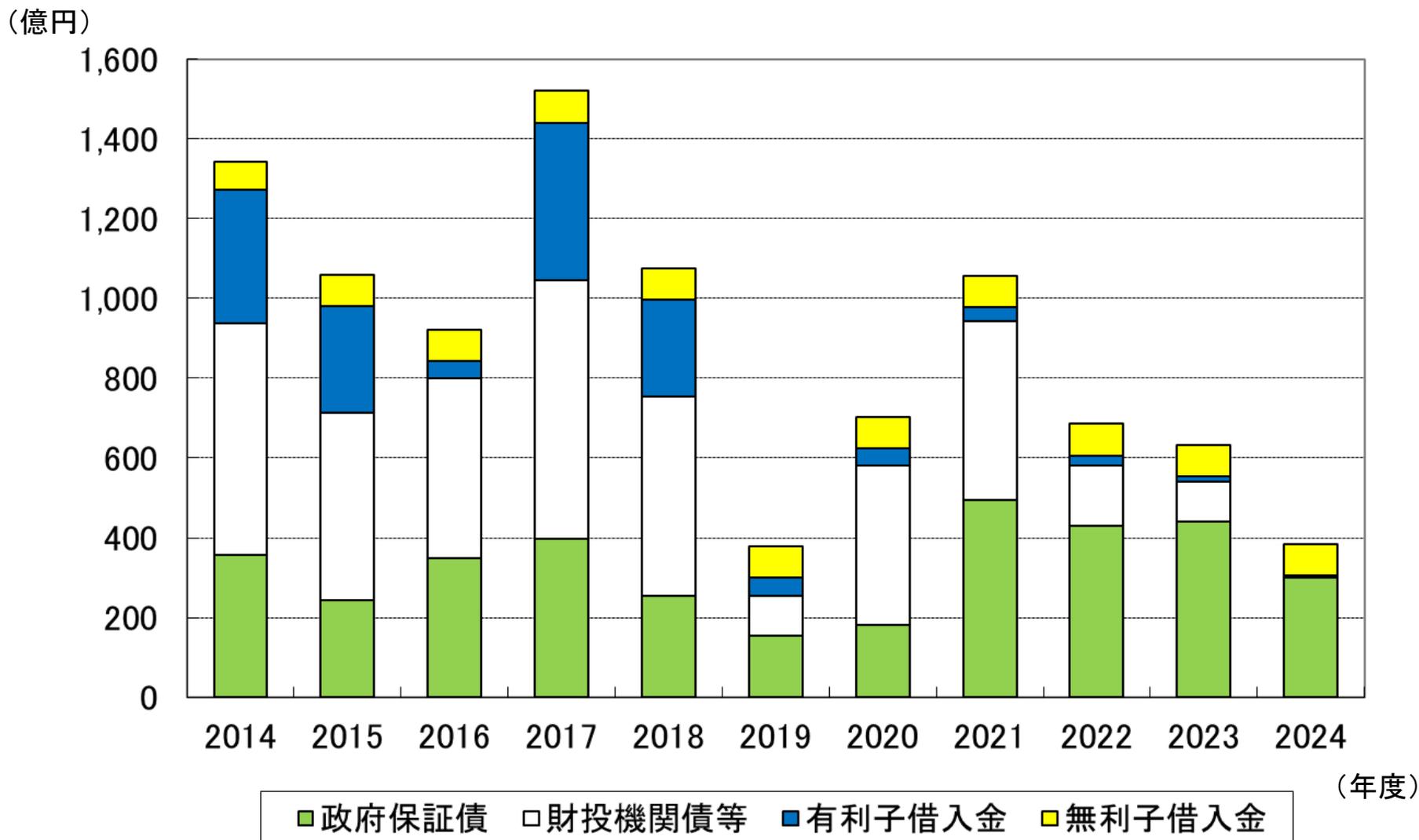
7-2. 有利子債務残高の推移(連結)



政府保証債
 特別債
 財投機関債等
 有利子借入金

(注1)億円未満四捨五入。(注2)端数処理の関係で、合計が一致しない箇所がある。

8. 今後の債務償還予定(連結)



(注1)億円未満四捨五入。(注2)端数処理の関係で合計が一致しない箇所がある。

9. 2014年度の資金調達予定



<2014年度 事業計画ベース>

区分	金額(億円)
政府補給金	20
政府保証債(10年)	300
財投機関債等	1,000
合計	1,320



10. 弊社に対する格付

○日本格付研究所[JCR]

⇒長期優先債務格付:AA

○格付投資情報センター[R&I]

⇒発行体格付:AA-

○ムーディーズ・ジャパン

⇒長期債務格付:Aa3

※ムーディーズは、当社を含む政府系機関が発行する債券に対し、日本国債と同等の格付を付与。

全ての格付について、
統合前の関西国際空港(株)へ付与されていた格付と、変化なし。

【本説明会に関するお問い合わせ】

新関西国際空港株式会社 財務部 資金グループ

<TEL>072-455-2126

<FAX>072-455-2044

<住所>

〒549-8501

大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地

<ホームページ>

<http://www.nkiac.co.jp/> [新関西国際空港 (株)]

<http://www.kansai-airport.or.jp/> [関西国際空港]

- ・本説明会は、当社の2013年度決算等について、投資家の皆様に情報提供することを目的としたものであり、債券の募集または売出を意図したものではありません。
- ・本説明会の資料にあります、将来の予測や見通し等に関する事項並びに数値は、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。